

つなぐ、つながる、支え合う。まちの見守り人

interview

地域の中で、どんな思いを胸に民生・児童委員として活動しているのか。市内で活動する委員にインタビューをしました。

「日々の見守り」から始まる、地域の支え合い



地域の中で広がる見守りの輪

民生・児童委員として、4期・10年目となり、現在は燕市民生委員児童委員協議会の会長として活動しています。

活動の中で大切にしていることは、日常生活の中での見守りです。ひとり暮らしの高齢者が増える中で、「小さな変化に気付くこと」が重要だと感じています。そこで、地域の皆さんにも協力を呼びかけ、社会福祉協議会とともに

関崎 幸孝さん

第4地区民生委員・児童委員
燕市民生委員児童委員協議会 会長

始めました。これは、住民が散歩の途中や日々の暮らしの中で異変に気付いたことを、民生・児童委員や自治会などへ共有する取り組みです。関係者だけでなく、地域みんなで見守る体制が必要だと考えています。

日常生活の中で無理なく続ける
保健推進委員として活動していた際に自治会長から声をかけられ、民生・児童委員になりました。不安や迷いもありましたが、人のために動くことは大切だと思い引き受けました。

また、自分自身の負担とならないように民生・児童委員として活動する日は、あえて決めていません。買い物ついでにひとり暮らしの高齢者の家に立ち寄るなど、日常生活の中で無理なく続ける工夫をしています。

本間 秋子さん

第2地区民生委員・児童委員



「つなぐこと」が私の役割。人と人が支え合う地域へ

境に課題を感じています。不登校や生活に困難を抱える家庭もあり、支援が必要なケースは少なくありません。学校や関係機関と連携しながら、さまざまな制度に結びつけることも私たちの役割です。

支援につながる住民との関係づくり

これまでの活動で印象に残っているのは、高齢者から生活支援の相談を受けた時のことです。日頃の様子に気がなり、声をかけたことがきっかけでした。その後、その人が必要な制度を紹介したことで利用することができ、「安心した」と聞いた時は、やりがいを感じました。

相談を受ける上で大切なのは、「気軽に話してもらえれば、関係づくり」です。その実現に向け、さまざまな団体と連携した「なんでもおしゃべり会」を開催しています。「相談会よりも気軽に参加できる場」として始め、少しずつ地域に定着してきました。これからは、日常生活の中でのゆるやかな見守りが、より重要になると思っています。

活動の中で感じるやりがい

やりがいを感じるのは、相談が支援につながった時です。地域に住む高齢者から相談を受け、関係機関につなぐことで課題が解決し、後日お礼を伝えるに自宅まで来てくれます。これは、今でも心に残っています。「ありがとう」の一言が、活動を続ける力になっています。

活動を通して、「話せる相手がいること」の大切さを感じます。顔を知ってもらうことで、いざというときに頼ってもらえる関係が生まれます。人のために動くことは、自分自身の生き方にもなっていると 생각합니다。地域の活動を通じて多くの人と顔の見える関係ができ、「支える側でありながら支えられている」と実感しています。

人は一人では生きていきません。だからこそ、お互いに支え合うことが大切です。人のために尽くすことは、やがて自分にも返ってくる。そんな思いで、これからも活動を続けていきたいと思っています。

「ちょっとした気付き」が誰かの支えに



社会福祉課 地域福祉係
(民生委員児童委員協議会事務局)

「最近、あのお家のお庭の手入れがされていないみたい。大丈夫かな?」という小さな変化への気付き。「今日は冷えますね」という、ひとり暮らしの人への何気ない声かけ。そんな日々の暮らしの中での「目配り」こそが、実は本人や家族を支える大きなきっかけになります。民生・児童委員の活動に、難しい知識は必要ありません。

「私にもできるかな?」と委員の活動や地域のボランティアに少しでも興味を持った人は、まずは気軽に社会福祉課までお問い合わせください。あなたの一步を、心よりお待ちしております。

●問合せ
社会福祉課 地域福祉係
☎ 77・8104



民生・児童委員の詳細はこちら